

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホーム オアシスことしば(弥生)		
所在地	山口県宇部市寿町3丁目2番5号		
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町受理日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、複合施設の建物の2階に位置している。宇部市の中心地に位置し、窓からは公園の木々が見え、四季の移り変わりを日々感じながら過ごすことができる。車で5～10分の場所にショッピングセンターが種々あり、時折利用者様と買い物に出かけている。また、市民館や常盤公園なども近くドライブや催しのなどにも出かけている。施設内では、他部署の利用者やスタッフとの交流も誕生日会やその他行事などを通して行っており、施設全体で利用者を支える体制ができています。医療連携体制も整っており、訪問看護師や主治医による定期的な訪問があり、緊急時や急病の際には24時間連絡できるような体制が整っている。食事に関しては、利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。また、火・木曜日の昼食は、利用者様と一緒に献立を考え調理などを行っている。納涼祭、餅つきなど地域との交流の場もっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を職員全員が常に意識し、利用者のその人らしさやこれまでの生活史を大切にし、本人の思いや意向を汲み取り寄り添うケアに心がけておられます。外部研修は、山口県宅老所・グループホーム協会や介護福祉士会が企画した研修に積極的に参加されたり、認知症ケアについて学ばれるなど、職員の資質に取り組みまれています。家族の来訪が多く、日頃から家族と手紙や電話でのやり取りをされる他、家族会を運営推進会議に合わせて開催され、利用者の日常の生き活きた表情をスライドで紹介されるなど、家族からの安心や信頼が得られる関係づくりを大切にされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホーム オアシスことしば(如月)		
所在地	山口県宇部市寿町三丁目2-5		
自己評価作成日	平成24年4月24日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

琴芝駅の近くで歩いていける距離に病院や店舗、福祉会館、警察などがあります。立地条件を生かし、外出支援にも力を入れ、気分転換の散歩やドライブを中心に1日の生活を送っていただいています。医療に関しては、母体病院のDrの訪問診療、また急変時の日中夜間を問わずDrの往診、隣接病院(系列病院)の緊急時の受け入れ、訪問看護(同系列)の24時間オンコール体制など、利用者の方々が安心して生活できる体制が整っています。当グループホームは、総合施設の2階部分にあるため、月一回の誕生会是有料老人ホームとの合同で開催し、誕生月には多くの方からのお祝いを受けられ大変喜ばれています。夏は納涼祭、冬は餅つき大会と季節に即した行事も盛大に開催される中、ご家族や地域の方、他の部署のスタッフとも交流を持たれ、毎年楽しみにされています。スタッフは、「そのひとらしく、楽しく、ゆったりと安心して」の理念をもとに、一人ひとりの方の時間を大切にし、利用者の方の「生きる力」を引き出せるケアに力を入れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
弥生	1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体であるオアシスことしばの理念とグループホーム弥生のスタッフの年度毎の目標を基にスタッフ間で共有し実践している。	「その人らしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念の他、職員個々の目標をもとに、事業所の年度目標を立てて、利用者の自分らしさを大切にするケアの実践につなげている。	
	1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのひとらしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念のもと、その方の時間の過ごし方を大切に、「自分らしさ」また「生きる力」を引き出すケアを実践するように心がけている。		
弥生	2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や受診、コンサートなどの催し物などなるべく地域の中に出かけていく機会を作っている。また、運営推進会議やボランティアの訪問などホームの中へも来ていただいて交流をもっている。	自治会に加入し、回覧板や自治会長を通して地域の行事を把握し、地域で開催する講演会やコンサートに出かけたり、散歩で出会う近所の人と会話が弾んだり、法人主催の納涼祭や餅つき大会に参加する地域の人や定期的に来訪するボランティア（紙芝居や読み聞かせ、歌謡）等と、交流している。	
	2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長さん、民生委員さんとの親交は持っているが、町内会の形態もあり、ご近所づきあいの広がりにはなかなか進んでいない。今年度は自治会長さんの交代もあり、地域とのつながりが変化していくと思われる。		
弥生	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族のみで抱えることがないように助言説明し、相談窓口の紹介と、サービスの種類やケアマネを紹介するようにしている。		
如月	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学などで相談に応じ、近隣のサービスや家族の負担が軽減する方法などをお知らせするようにしている。また、管理者は事業所以外の認知症の研修などでお話させてもらう機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、管理者だけでなく職員間でも行い日頃の業務の振り返りや今後の方向性を見出す きっかけとしている。	評価の意義を理解して、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価の過程で気づいたことや外部評価結果を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で取り組み、カンファレンスの際に確認しあっている。職員のほとんどが評価を何度も経験しており、意義をその都度理解し、評価を受け、さらなるケアの向上等に向けて改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価内容を運営推進会議で報告し、質疑応答の機会をもっている。また、その際に出た意見に対しては、後日改善方法や実施報告などを行いサービスの向上努めている。	利用者、家族、自治会長、民生委員、市介護保険課、第三者委員等の他、テーマに併せて、歯科医師や訪問看護ステーション、消防署、警察等の出席を得て、年6回開催している。家族会と同日開催時には、多くの家族の参加があり、スライドを使って利用者の外出時の様子などを報告している。防災や感染症予防、介護保険等について意見交換を行い、地域の協力が得られるよう取り組むなど、意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではテーマをもって毎回開催している。その際、外部評価での結果で見えてきた課題を話し合い、今後の取り組みへ活かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ホーム の状況を伝えている。また、介護保険の改正 など専門的な分野において、家族に直接詳 しく説明してもらおうなどの協力を得ている。	市の担当課とは、直接出向いたり、電話で状 況を伝えて、連絡を取り合っている。困りごと や事例に関しての情報を得たり、意見交換を するなど協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、高齢福祉課の職員の方々とは 建物も近いので日頃から伺っている。な事 を相談させていただいている。		
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回は、身体拘束に関する施設内研修を 行い職員に周知徹底している。また、機会が あるたびに身体拘束について理解できるよう に説明している。	マニュアルを基に研修を実施し、職員は正し く理解している。玄関の施錠を含め、抑制や 拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の気持ちを尊重するケア、安全に過 ごしていただくケアを中心に考え身体拘束を なるべくしない方向で取り組んでいる。離苑 の危険性のある時間帯のみ施錠させていただ くこともある。		
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	管理者は、広い施設内で少人数のスタッフと 閉鎖的になりやすい環境であるため特に注 意を払っている。特に言葉の暴力は、見過ご されがちで本人も気づかないこともあるので お互いに気を付けている。		
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修などを 通して学習し、どういう形のものが虐待であ るかという基本的なものも知識として習得し ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	弥生	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で、専門家を講師に招き成年後見制度を学ぶ機会を持っている。まだ、必要性のある利用者はいないが、今後必要となってくる制度なので参考になっている。		
9	如月	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について全館での研修に参加し、利用者の方々のみでなく、自分の周りの方への支援にもつなげることができている。		
10	弥生	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明にはゆっくりと時間をとってもらい、十分な説明を行い理解・納得してもらっている。制度の改正などに伴い契約内容に変更があった際にも、書面をもって十分な説明を行っている。		
10	如月	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に、契約書、重要事項説明書に沿って時間をかけて説明をさせていただいている。途中何度か質問を受けられるような方法をとっている。改定の際は家族会などで説明をさせていただき、理解していただいた上で了承していただいている。		
11	弥生	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、受け付け体制を整えている。窓口等は、見えやすい場所に掲示し、利用しやすいように配慮している。苦情相談の内容は、書面に残し会議などで改善策を講じ、結果を返答する。また、職員に周知徹底するとともに運営推進会議でも報告する。	相談、苦情の受付体制や処理手順を定め、入居時に説明している。家族からの意見や要望は、運営推進会議や家族会出席時、来訪時等あらゆる機会を通して気軽に言えるよう雰囲気づくりをしている。意見は、運営に反映させている。	
11	如月	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や入り口に苦情受付窓口や相談場所などを明記している。また、運営推進会議にご家族に出席していただいた際に、意見や要望を聞き、運営の改善に役立てさせていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議中や個人的に出た意見や提案をまとめ、必要があれば幹部会などに欠けるなど職員の意見を反映するようにしている。	管理者は、職員が日常の中で意見が言いやすいよう心がけ、月1回のカンファレンスや他の職員会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている。事業所で出た意見は法人に報告し、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は管理者へ日常的に気づきやアイデアを伝えることができ、カンファレンスなどで意見交換の後に日々のケアに反映されている。また、管理者は幹部会において現場の思いを伝えることができる。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握しており、研修参加状況、資格取得意欲なども勘案し、向上心をもって働けるよう職場環境の整備に努めている。また、職員の精神的・身体的負担を軽減できるように努めている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、研修参加状況、資格の取得への意欲なども勘案し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、職員の希望も聞きながら内容を設定するようにしている。法人外の研修については、情報提供を行い希望があれば参加しやすいように便宜を図っている。また、機会をとらえトレーニングしている。	外部研修は情報を提供し、希望、経験や段階に応じて、勤務の一環として受講できるように支援している。法人内では新人研修と法人内のグループホーム合同研修を実施している。内部研修は職員全員を対象に、一次救急や成年後見制度、倫理、人工透析等の研修を計画的に実施している。受講できない職員にはカンファレンス時の伝達研修を通して共有している。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加の機会があり、学ぶ事により意識の向上もみられる。月一回のリスクマネジメント会議では事故報告書に基づいて事例の検討を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	弥生	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協会や職能団体の研修や集まりなどの情報提供をしている。また、順番で出席できるように勤務など配慮している。		
15	如月	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと一緒に勉強会を開催したり、他のグループホームの運営推進会議に管理者が出席し、交流を図っている。グループホーム連絡協議会の勉強会にも出席し、他施設の職員さんたちとの交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	弥生	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人的に関われる時間を大切にし、職員の方から積極的にかつ具体的に要望を聞くようにしている。認知症の状態により、本人から聞くことが困難な場合は、家族などから情報を得るようにしている。		
16	如月	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人を知るための観察と会話の中から思いを引き出せるように話しやすい雰囲気づくりをホーム全体で作っている。		
17	弥生	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時、初期の来居時は、できるだけ家族との会話の時間をもち不安などが解消できるような関係づくりに努めている。		
17	如月	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まる前後には連絡を密に取り、家族の思いをお聴きし、不安を少しでも解消してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	弥生	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の情報(情報提供書・聞き取り・面接など)から必要な支援を見極め、特に医療面、福祉用具の利用などの生活全般におけるサービスの利用ができるように努めている。		
18	如月	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活への要望など本人と家族の意向を尊重し、ケアマネとも協議しながら医療面、生活面が充実するように必要なサービスを利用していけるよう準備している。		
19	弥生	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、暮らしの中の知恵を借りたり 手伝いをお願いしたりしている。また、職員が利用者に悩みを聞いてもらって励まされたりすることもある。		
19	如月	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な分野で力が発揮できる場面作りや自分の役割を持ていただくことでホームでの生活を支える一員であることが実感できるように努めている。		
20	弥生	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の嗜好や安心される環境づくりのヒントなどを聞いたり一緒に考えたりして、共に本人を支える関係を築いている。		
20	如月	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いをご家族へ伝え、家庭でのお祝い事や法事などの際に帰宅できるよう話し合って実現できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があったときは、ゆっくりと過ごせるように居室に案内したり、本人の状態によっては、仲介をしたりして親交を深められるように配慮している。また、お茶など出して場が和むようにしている。	家族、知人、友人の来訪がある。馴染みの場所や、以前働いていた職場、馴染みの商店での買物、美容院の利用などに出かけている。手紙、電話の支援等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際にそれぞれの利用者の方々の思いの地などに行くようにしている。またその際には同じ思いを共有できる方同士での外出も心がけている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食卓の席順や外出時の座席、グループ作りに生かしている。また、認知症が重度になってきても利用者同士が、関わり合い、支え合えるように会話を仲介したり、車椅子を押していただいたりしている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出時のグループなどは関係性を把握した上で調整している。それによってより深い絆が生まれ、支えあいの効果が出ている。理解し合えない関係には、それぞれの思いを代弁することで少しずつ理解し合えるように援助している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られてもその後の経過を聞いたり、安心して過ごせるように情報の提供をしたりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた利用者の方々とその後のご様子などをメールで連絡をしたり、入られた施設への訪問も行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24 弥生	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人との個別の時間を大切にし、一人ひとりの思いを聞くようにしている。また、それが遠慮なく表現できるように日頃からの関係づくりに努めている。そして、それが困難な場合は、それまでの本人の状況や家族と話し合いの中からもなるべく本人本位になるように配慮している。	利用者との関わりの中で発せられる言葉や表情から汲み取り、経過記録や業務日誌に記録し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話しあい、本人本位に検討している。	
24 如月	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々の状況を観察しながら、一日をゆったり過ごすようにしている。希望を表現することが難しくなっている方には、ゆっくり寄り添い、時間をかけて非言語的コミュニケーションでも表現できるように支援している。		
25 弥生		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接、入居時などにお聞きしている。また 入居後に、本人から関係を築きながら聞いている。		
25 如月		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムの中で、幼少期、また子育ての時期などのお話をお伺いし、そのエピソードを場面場面でお話していくことで懐かしい気持ちを持っていただいている。		
26 弥生		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を経過記録や業務日誌に残し、現状の把握に努めている。また、毎月1回カンファレンスを開き一人ひとりの状態把握を全員で再確認している。		
26 如月		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者の方々の体調、心身の変化に気づける力をつけ、情報を共有することにより毎日健康に、また豊かな気持ちで暮らしていただけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から、機会を見計らってその時々 の暮らし方の希望などを聞き介護計画に反 映している。また、カンファレンスを利用して モニタリングを全職員でしている。	職員全員で毎月1回ケアカンファレンスを開 催し、利用者の希望や状態、訪問時や電話 連絡時の意見を参考にして、介護計画を作 成している。3か月毎にモニタリング、6か月毎 の見直しをしている。い	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	キーパーソンの方だけではなく、利用者を支 えていらっしゃる家族の方から情報をいただ き、利用者の方の生活の広がりへとつなげ ている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は経過記録に残している。特 に、介護方法の変更やアイデアなど必ず就 業前に把握しておいてほしいことは申し送り のノートにも記載し情報を共有できるように。 している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に個人個人の様子、気づきなどを 記入して勤務者がすぐに情報を共有できる ようにしている。また、排泄や一日の気持ち の流れを把握する必要のある利用者の方 の24時間シートを作成し対応している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体状況の変化に伴い、施設内の 他の福祉用具を利用したり、特殊浴槽を利用 したりしてサービスの多機能化に取り組ん でいる。また、移動美容室や訪問歯科なども 利用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画に縛られることなく利用者の方々、家族 の方々の要望に対応できるよう他のサービ スの利用の情報なども得るように日ごろから 心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	弥生	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺に公共施設（公園、福祉会館、記念会館など）が揃っており、地域での催し物に参加している。		
30	如月	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで生活してこられた環境を大切にし、出かけることができない際は、会話の中でその生活に戻った気持ちを感じていただけるように支援している。		
31	弥生	(13) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が継続できるようにしている。必要であれば協力病院から他の病院も紹介する。	利用者や家族の希望を優先し、協力医療機関の他、以前からのかかりつけ医の受診が出来るよう支援している。協力医は2週間毎の往診を行っている。他科の受診は主治医の紹介状を持って職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	如月	(13) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を継続しながら、皮膚科や眼科、耳鼻科などの受診の希望をされた際にも主治医からの紹介状を持って職員が付き添い受診するような体制をつくっている。		
32	弥生	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回定期的に医療連携体制をとっている訪問看護師が来居している。訪問時以外でも気軽に相談できる関係が築けている。また、同施設内の看護師に受診等の相談に乗ってもらったりしている。		
32	如月	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の月2回の定期訪問の際に2週間分の情報を記入し渡し相談等をしている。訪問日以外にも電話で相談をしたり、また同施設内の有料老人ホームの看護師にも相談し利用者の方々の体調管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	弥生	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、情報提供書や口頭で詳しく本人の状況を伝えるようにしている。また、なるべく病院に通い本人が安心できるように声を掛けたりしている。法人の系列病院がかかりつけ医なので関係づくりもできている。		
33	如月	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系列の病院の医師や看護師との関係は以前より図れている。また、利用者の方々が受診される整形外科等の病院の医師や看護師とも情報の交換や電話相談なども受けていただいている。		
34	弥生	(14) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する指針を作成し、事業所でできることを説明し、方針を共有している。また、場合によっては、他施設など安心して円滑に移行できるように支援している。	重度化や終末期に向けた指針があり入居時や家族会において説明している。実際に重度化した場合には、家族や関係者と話し合い、方針を共有し、医療機関への移設を含めて、本人、家族の意向に添った支援を行うよう話しあっている。	
34	如月	(14) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてのご説明を3月末に行った家族会にてお話をさせていただいている。また看取りに向けての指針やその際にどう支援していくかの方向性も介護保険課の担当の方と相談しながら作成させていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント会議やカンファレンスなどを通して、一人ひとりの心身の状態に応じた対応をおこなっている。例えば転倒防止のための寝具や履物等。また、施設内の研修などで救急時の対応などを繰り返し学習している。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、リスクマネジメント会議を行い、その対応の仕方を検討、協議し、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の協力による心肺蘇生やAED使用方法を学んでいるが、全職員対象の応急手当や初期対応の定期的な訓練としては十分とはいえない。	・全職員を対象とした応急手当と初期対応の定期的な訓練の実施
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	両ユニットでリスクマネジメント会議を月一回開催し、事故報告書やひやりはつとを基に検討している。その際にどういう対応をしたらよいかを職員で話し合い、必要であれば介護技術等の勉強会をしている。		
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的年2回昼夜を想定して避難訓練を行い利用者が安全に避難できるよう訓練している。また、自治会長から地域の防災マップをいただき地域の一員としての防災を認識している。	年2回、消防署の協力を得て、法人施設と一緒に昼夜を想定した避難、通報、消火訓練を、利用者も参加して実施している。運営推進会議でも議題として取り上げ、自治会長の協力を得ているが、災害時における地域住民との協力体制の構築までには至っていない。	・災害時における地域との協力体制の構築
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を全館で実施し、災害時には他部署との関係が図れるようにしている。東北の震災を受け、津波が来た際のシュミレーション等もし、運営推進会議でも検討し自治会長さんからの意見等もいただいている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37 弥生	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の誘導、失禁等介護の場面において他の利用者にわからないような言葉かけや対応をしている。感謝や尊敬の念を場面場面できちんと伝えている。	研修で学び、職員は理解して、利用者一人ひとりの尊厳を大切に言葉かけや態度など、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。個人情報の取り扱いにも留意している。	
37 如月	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重するとともに、敬意を払った声掛けや対応に努めている。		
38 弥生		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しかけてきたときは、ゆっくりと話を聞くようにしている。また、職員からも個人的に対応できる時間を大切にしている。認知症が重度になってきても必ず、声を掛けできるだけ自己決定できるようにして本人の希望をきいている。		
38 如月		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる方は思いを訊き、受け止めるように心がけている。自己主張できない方はこちらから答えやすいような質問内容で思いを伺ったり、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
39 弥生		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人を中心に考え、したい事、好きな事、どのように過ごしたいかの思いや願いを聞きながらそれに沿うように支援している。		
39 如月		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望のある方はそれに沿った支援をし、要望を出せない方は日常の言動から察するように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	弥生	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を本人が選択されている。また、状況や天候に応じた服装ができるように助言をしている。美容に関しては、今までの習慣が持続できるように化粧水などの使用も支援している。毛染めやパーマなどの施行も出張美容院などを利用して支援している。		
40	如月	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中でおしゃれに関心を持っていたり、カットをされた後はお一人ずつ写真を毎回撮るようにし、きれいになるという気持ちを大切にさせていただきようとしている。		
41	弥生	(18) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できることやできないことを見極め、一人ひとりの好みを考慮して支援している。手伝っていただいたことには必ず感謝の念を伝えている。	法人の配食を利用し、週2日は事業所内でつくっている。利用者の好みや希望を聞いて献立を立て、買物、調理、食事の準備、盛り付け、テーブル拭き、お茶を入れる、後片付け等、利用者のできることを職員と一緒にしている。誕生日や行事食、おやつ作り、外出にかけなど、食事を楽しめるように工夫している。	
41	如月	(18) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは率先してされる方や声かけによってされる方など、その日の自然の流れの中で支援している。苦手な食材がある場合は、代替品を提供したり、味付けや盛り付けを工夫している。		
42	弥生	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録しスタッフが把握している。それを参考に、本人の好みの飲み物や嚥下の状態によってはゼリーなどで提供したりして1日の水分量を確保している。食事は必要に応じて柔らかい物やミキサー食にしたりして支援している。		
42	如月	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、一日の水分量を記録し、体調の変化に留意している。摂取量が少ない時には、本人の好まれるものを提供し、補うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	弥生	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。認知症が重度化してもなるべく自分で磨けるように支援したり、歯ブラシも工夫している。		
43	如月	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回歯磨きセットの準備をし、自ら磨いてもらえるような環境を作っている。自らされることの難しいかたには声かけを行っている。全員の方が月1回の訪問歯科による口腔ケアを受けられている。		
44	弥生	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し排泄のパターンをつかみ失敗を減らすようにしている。また、体調を崩しおむつを使用されている時も1日1回はトイレに座れるように支援している。体調や時間によってもおむつや布のパンツなどと使い分けたりしている。	排泄表をもとに一人ひとりの排泄リズムや習慣を把握し、プライバシーに配慮した声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
44	如月	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方には排泄チェック表を準備し、排泄パターンをつかみ、声掛け、誘導を行っている。また、日頃誘導させてもらっていない方でも行動や表情から必要性を感じた場合は誘導をさせていただいている。		
45	弥生	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分量を増やしたり、排便のある時間の把握、腹部マッサージを実施している。通常的には、野菜がたくさん摂れるメニューやヨーグルトなど排便に効果のある飲食物の提供、体操・散歩の声掛けなどを行っている。		
45	如月	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や体操や散歩などで身体を動かしてもらい便秘の予防に努めている。また、主治医へ報告し、薬の調整などもお願している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20) 弥生	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく本人の希望を聞きながら入浴していただくようにしている。しかし、認知症の重度化に伴い本人の希望通りに入浴していただくことが難しくなっている。入浴されている時は、本人のペースでゆっくり入れるように支援している。	入浴は毎日、時間は13時30分～17時30分迄可能であり、利用者の希望や状態に合わせていつでも入浴出来るよう支援している。湯温の調整や本人の入浴時の習慣(入浴剤、洗髪剤)を大切にしたい支援を行い、入浴が楽しみなものとなるよう安全に配慮した支援を行っている。	
46	(20) 如月	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方々に納得していただける順番に配慮している。また、入浴の際には湯加減、洗体、洗髪など、ご本人の好みに合わせて支援している。		
47	弥生	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜を通じた状態や一人ひとりのパターンを把握し、休息を勧めている。また、夜間眠れない時は湯茶などを勧め会話することで安眠されている。		
47	如月	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方々、それぞれのリズムがあり、昼間休みたい方は自室で休まれ、夜間眠れない時には、居室やサービスステーションにて穏やかに休める気持ちになられるような支援をしている。		
48	弥生	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示、処方箋、薬の本やインターネットを使い薬の内容を確認している。配薬ミスのないように2重チェックを行い、また、誤薬のないように与薬時には特に注意をし内服されるまで見守りしている。症状に変化がある時は医師に報告している。		
48	如月	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配役箱に職員が準備し、薬を持って行く際、ご本人の手に出す際にも呼名し、飲まれるまで確認している。処方の変更があった際は治療薬マニュアル等で作用、副作用を確認し、副作用が出た場合などは主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	〇活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から得た情報を生かし支援している。 本人の好きな事、得意な事、やりたい事、できることに気づき、見つけることによって行っている。いただき日々過ごせるよう支援している。	新聞を読む、テレビ視聴、ぬり絵、琴の演奏、カルタ、卓球、体操、歌、外食、外出、掃除、洗濯物たたみ、調理、食事の準備、後片付け、生け花、壁面づくり、季節行事(誕生会、運動会、芋ほり、餅つき等)など、活躍できる場面を多く作り、一人ひとりが喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
49	(21)	〇活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野や今できることを把握し、家事の手伝いをお願いしたり一日の過ごし方の支援をしている。		
50	(22)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や天候を見て、できる限り希望に添えるように支援している。個別の外出は、家族がされている。	近隣の散歩や買物、外食、季節の花見(つつじ、藤、菖蒲、石楠花、コスモス、菊等)、ドライブ(宇部空港、瑠璃光寺等)、初詣などに出かけている。家族の協力を得て、墓参りや自宅訪問など本人の希望に添って出かけられるよう支援している。	
50	(22)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方の要望を聞きながら、散歩やドライブなどに出かけている。また、季節を感じていただけるよう行事に沿った催しものにも出かけている。その際にご協力を願えるご家族にはご一緒にいただき、他の利用者の方々との交流の支援も行っている。		
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4名現金を所持しておられる。希望のある時は、いっしょに買い物に行っている。所持しておられないかたには、あらかじめご家族の了解をいただき預り金より出して購入していただいている。		
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の好きなものを買いたいという気持ちを大切に、職員が同行し、自分で買い物をされている利用者の方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	弥生	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば入り口にある公衆電話から自分でコインを入れて「ダイヤルをしてかけてもらっている。できない場合は職員が支援している。		
52	如月	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいといわれる際には、ステーションの電話を使いかけていただいている。電話番号は覚えておられる事もある。手紙は葉書が家族から届くことがあり、楽しんで読んでいただける時間をもっといただいている。		
53	弥生	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、特に食堂や居室は照明や温度音、などに配慮し利用者が混乱なく落ち着いて過ごせるように配慮している。ホールには、カレンダーや日めくりを貼ったり、玄関には季節毎に利用者手作りの作品を利用して環境構成を行い季節感や生活感をだしている。	食堂兼居間は明るく、調理の音や匂いがし、談笑の声が聞こえて家庭的な雰囲気もあり、五感刺激に配慮した共用空間づくりをしている。居室に続く広い廊下には色々な形のソファを置き、思い思いの場所でくつろげるようになっている。壁面には、月変わりの利用者の共同作品である壁画やカレンダー、時計等が飾っており、室内には季節の花が活けてある。温度や湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53	如月	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、壁面の飾りつけをしたり、四季の花を活けたりすることで季節感を感じていただけるように努めている。居間の窓からの日差しが強い際はカーテンやカフェカーテンなどで光を和らげている。また湿度にも気を付け加湿器兼空気清浄器を設置し、快適に過ごしていただけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	弥生	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のいろいろな場所にソファや椅子を設置し思い思いに過ごせるように配慮してある。		
54	如月	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方々の関係性を考え、テーブルの配置を工夫している。日によっての差もあるため柔軟に対応できるようにはしている。		
55	(24) 弥生	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、できるだけ「馴染んだ家具や道具」などを持参していただいている。また、家具の配置を入居前と同じような雰囲気に誂えていただいたりしていただいている。	テレビ、扇風機、机、椅子、キャビネット、鏡台、サイドテーブル、洋服掛けスタンド、座布団、衣類、本、筆記用具等の使い慣れた物が持ち込んである。子どもからのプレゼントの椅子やこたつ、花鉢等大切なものを置き、壁面や机上には、家族写真や自作品のぬりえ、カレンダー等を飾り、本人が居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	
55	(24) 如月	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団以外はその人らしい生活を損なわないように必要な物品は準備していただいている。		
56	弥生	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などの場所を掲示しわかりやすくしたり、安全に移動できるように手すりが設置してある。		
56	如月	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の確認が難しい方には扉のわかりやすい位置に名前を明示し、自分でも確認できるように支援している。また、カレンダーや日めくりを月日が確認できるよう目に当たりやすいところにかけている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム オアシスことしば

作成日：平成 24年 11月 5日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員を対象とした応急手当と初期対応の定期的訓練の実施ができていない。	全職員が応急手当、初期対応が適切に行えるようになる。	今回の外部評価実施後、消防署による救急法の講習をグループホーム単体で運営推進会議で行った。しかし、前回の外部評価からはヒヤリハット・事故報告書に目を通し、職員間で問題点をリスクマネジメント会議にて検討することはできていたが、緊急時の実践的な対応には至ってはいなかった。今後は、研修計画に基づき、応急手当や初期対応の訓練を月1回、職員一人ひとり行い、力をつけていく	1年
2	36	災害時における地域（同施設内、同敷地内）との協力体制の構築	災害時に他部署との連携が取れるように協力体制をつくる。	グループホームだけでなく、他部署の職員と連携が図れるように勤務者の連携を体制のマニュアルを作成する。 グループホーム、デイサービス、有料老人ホーム、他施設職員との密接な連携が図れるよう親睦会などを通じて顔見知りになる。（親睦会実施 平成24年11月9日 忘年会実施 平成24年12月8日）	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。